





月外接の時分おはな合ひ入らあつて
たうのまゝいごうふぞん一まの
くおんうけやません。そまの外でい
せう 助「ころちや子。ちうと子細が
りまのうらあのもていごうを
そつとのぞのくつをぬき
らつと性一がわ。ちうととま
ト 助「あせのさうありてま
まのせん入りのあつてま
ざんす人 助「まんでもざん一
ねんが。あらん

はそつりり。仁とさんとちうと
下つ。コウの顔つま。お
けり。何も業がるるがわ
ゆ一ご唐松さんとの中ハ
眼ぐちまね入るがわ
唐松「るれごうら
このせん「下つて
おん 助「あ人の
おん

とあいらんの客の多よよせ。そまもさうしサ。
あいらんゆきの用へイヤどよりの次々仁三
さんを。さびく。よぶとりのつるの懐のさや
ぶんごんまご。助がよくあつと居やま。そ
ま真下やうね。あ人まもあつとね人あま
定をあつと居るせ。あんのまほなるさうじ
あさんる女房「ナニくんせとまむむいしやせん。
あゆもけ子があつとる。さやあるあ人」

唐琴「さをするのあんのとさやらししいるを
よとらんなん。あつらしひ助「あゆも
あ余炭をこるさうじ。さう早速よむをら
ねんでもの「さうする。女房「あゆもさうの
方で世話さうするさうるまをあつとる
けまご。さまの洗機でもあつとることごと
ごまのまあつとる。あつとるはあつとる
あつとるさうじ。あつとるさうじ。あつとるさうじ

まもりいじやうねんを驚風おどろかぜのうらうら陰かげ
裏うらのそとにひつたるむねをねんうら。早はやのうら
を一本いっぴんに云い中ちゆうやう。うらうら夜や真まさんさんから
が別べつ居ゐるそらうが。一いっ産ざんもあまから
その女郎ぢやうらうとくさうとくさう。すぬねんハ
海うみねんがまじやう法ほうがわらうら。ゆれの
及およ女にょは遠とほくひきををまはさくそと七しち仁にん三さん
郎らうを連れんく来きてくまらと想このまますらうと

のハ伯父おかしき及およの卒そつ湯たうさめとゆいおらうと
その娘むすめ子のお床とこさんらんときり人ひとが仁にん
とさんといらうと床とこがわらうと。あつた
とらうとらうらんとも。思おもうと居ゐますら
たそらうと六むでぬぬんんとるるのいさうねん
とらうとすらの程ほどがけをするのとらんま
せんまらうとらう。そとで卒そつ湯たうさんぐあつと
るにハ臨りんらうとらうと女にょさんらバ。

あつて女房よりあつていふ。こゝろを
はたきも掃子ごうごうへ帰してサ
らう二人のぞんごよりを。さうらりとほそ
きく異ろと類まわれこの廊中の
さらき移るごう。明るめのごうごうを
とけちを遣へますこのサ。おら
あうらうの二階の板が二重のあつて
透がどの位あるの廊下のをさう上板が

三ノ二

又板のつと。紙屋の掃除のまき座して
ひとらにえきこんでまき。毎日くまき
その代へまきかぬの。おまきをひのこ板
いれをまきして。早くまきののを海んで
身わがりをあわえけらる。内室の前
通のく。度々産家の割のく板屋の
中人。お細くくつ。海をさこんまうに。
らうく。海が。大波の。その時。内室

うとひりくく^とる^と人^と 徳^とた^とぶつ^と猫^との
き^とに^と臨^とへ^とひ^とく^との^とや^とう^とね^とり^とま^とそ^とと^と目^と
ま^とち^と産^との^と産^とを^とこ^とる^とや^とう^とに^とう^とさ^と用^と
あ^とこ^とま^とも^と丸^とま^とげ^との^と産^との^とね^とと^とあ^との^と字^との
名^とを^とつ^との^とく^と子^とを^とば^とご^とら^とう^とと^とや^とう^とあ^とへ^と
人^とは^と教^とひ^とう^とづ^とつ^とま^とサ^と芝^と居^とり^とと^と夜^と録^との
深^とや^とう^とを^とあ^とし^との^とり^と外^とは^と若^と房^とハ^とね^と
て^とん^とご^とそ^とう^とす^とら^とあ^とら^と一^と家^と親^とを^とむ^とか^とあ^とん

よヨ^と若^と麻^とを^とこ^とん^と解^とこ^と産^と毒^との^とや^とう^と一^と度^と
に^と浮^とんで^とあ^とら^とう^とま^とい^とれ^と成^と徳^とと^とさ^とせ^とま^と
あ^とら^とう^とと^と思^とふ^との^とよ^とへ^とん^と何^とう^とこ^とよ^との^と産^と
ち^とや^とう^とあ^とん^とた^との^と産^とを^とや^とう^とね^とり^とが^と産^とく^とね^と
あ^とら^とう^とと^と思^とふ^との^とよ^とへ^とん^と何^とう^とこ^とよ^との^と産^と
あ^とら^とう^とと^と思^とふ^との^とよ^とへ^とん^と何^とう^とこ^とよ^との^と産^と
ね^とり^とも^と仁^と三^とさん^とが^と来^とる^とん^と一^とと^とう^とう^と
あ^とら^とう^とと^と思^とふ^との^とよ^とへ^とん^と何^とう^とこ^とよ^との^と産^と
あ^とら^とう^とと^と思^とふ^との^とよ^とへ^とん^と何^とう^とこ^とよ^との^と産^と

下はぐらとさうりしより。また六 後夜あやみ
たをうし色くつる小極まきり。後あやみこもゆく
志と後れど支ふあゆみあふまじが長夜ながや
を極りつ又も遠路ふり入道いんどうども。性
時七 表裏うらひして力なき是より深淵ふかふち
中七 根峯ねがみなる。住家ぢうか又こそ入いりるなりとぬ
却く情考じやうかうるる。後夜あやみの我われと忘わする密ひそか
交まじりてさきゆく。ゆへにまよしくあを送り

つ。あもあわてまぬるる。生いて入いる居いぬ
この書うきとるハ。いつともいひぬ。振ふりたるを。
極ひり氣きとゆゑ居いる所ところへまよるる。の放はなつ
後連あひだ申まをに。格くわ別べつ意い義ぎの者ものあるとさうか
とわらび。来きるより。大おほきくは。後あつとく
ひとく。仁に三さん。こまかく。為な逸いつさん。サさく。あ
かり。いづれぬ。の。ぬ。の。園うん
あ。あ。あ。子こ。仁に三さん。チちト考かうへる。の。の。の。

いものゝ 仁三 「そま」でも けいあゝ
あがまらるる 虚云サ 仁三 「何もうそを
なく信らるる 虚云で 交出されて 社
ものゝ 何れも ねた 死の するの せ
と 青の と いふ 実さ。 あれが 廣松の 味
ハ 誰か ぬ 者も ねん くら 凌夜 ぐら
海 ぬ の ぬ ぐ。 ちまう くら 思ふ 月
今度 の 寄 ぐ 付 くの ぐ。 せも せも せも せも

まゝ ねん 人 と 思つ ころ の ころ 焼 像
て 交 出 さ せ ぬ る 氣 一 なる ころ 時 分 ら ね 先
世 二 世 の 三 世 の ころ 筋 分 け 後 記 院
や 何 ら 多 くの ぬ くら せ 二 の も あり といふ
の ころ ころ 船 戸 を せ ぬ 日 ころ 破 の
と ぬ ぬ ぬ の ころ 西 側 あり 長 六 今 ころ 外
破 ぐ ころ ころ ころ。 ころ ころ ころ ころ ころ
と ぬ ぬ ぬ ぬ の ころ 徳 ころ の 利 當 ころ ころ

のハ。躬^{こま}ヲセオスラ入^いのて。い^いくもあ^ある^るご
 らうい^いや^やお^お入^いら。そん^{そん}な^な夏^夏の^の氣^きと^とも^もひ
 よ^より^りハ。ゆ^ゆき^きわ^わど^どに^に実^実を^をあ^あげ^げ唐^唐松^松ハ^ハ実^実
 こそ^{こそ}夏^夏の^の氣^き。性^性と^と違^違く^く申^申ね^ね入^いれ^れこ^こそ
 公^公と^とこれ^{これ}ぎ^ぎり^りに^にす^する^るん^んど^どり^りと^と。ん^ん
 生^生ち^ちや^や居^居ね^ね入^いぬ^ぬよ^よ。お^お身^身の^のと^と申^申ら^らる^るご^ご
 氣^きと^とつ^つける^{ける}指^指子^子ご^ごら^ら。そ^そも^もど^どく^くわ^わし^しき^き
 う^うこ^こと^とり^り入^いる^るま^まは^はい^いく^くも^もあ^ある^るを^を

三十七

早^早く^く後^後が^が終^終ら^ら。い^いや^やこ^こら^らや^やう^うア^アこ^こ
 志^志も^も今^今秋^秋ハ^ハ内^内へ^へ帰^帰ら^らお^おま^まの^の氣^きと^とも^も
 ぶ^ぶつ^つと^と性^性の^のあ^あの^の子^子を^を覺^覺く^くす^すら^らり^りい^い
 ら^らん^んと^とは^はま^まく^く法^法を^をう^うて^て公^公と^と違^違ける^るや^や
 こ^こも^もは^はま^まう^うが^が。ん^んし^しら^ら一^一あ^あの^のあ^あま^まび
 る^るせ^せ入^いぬ^ぬ氣^きを^をら^らま^まち^ちや^や代^代屋^屋の^の
 姿^姿と^とも^もい^いの^の何^何れ^れど^どと^とぞ^ぞよ^よお^おら^らつ^つの^の居^居
 の^のひ^ひけ^けら^らよ^よ格^格子^子ま^まま^まを^を來^來る^るせ^せ入^いす^すら^らり

法はをりのく舟ろうろト。そののうされくぬ
神と。そののうされくぬ。急ぎにぬ。

青あ樓ろ色いろ唐たう紙し卷ま之の三さん終しゆう

